

令和2年12月3日

保護者の皆さま

仙台市立長町中学校

校長 今野 隆

新型コロナウイルス感染症の対応について

師走の候、保護者の皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動に対しまして深くご理解・ご協力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、いよいよ波乱の2020年も最後の月を迎えました。新型コロナウイルス感染症は、依然として日本だけではなく世界中で猛威を振るっています。日本各地の学校でも感染症が確認される事例も増えています。県内そして仙台市内でも小中学校で散見されるようになってきています。

私たちの長町中学校は、生徒数857名が学校生活を送る、仙台市で2番目の大規模校であり、この長町地区は仙台市の副都心としても急激に発展し、人の往来も激しい地域でもあります。そのため、感染症のリスクも高いのではないかと考えられます。しかしながら、学校再開の6月から半年間、学校教育活動が中断されずに継続されてきたことを本当にうれしく思っております。この間、生徒たちは、しっかりとした生活を送り、「新しい生活様式」に基づいて決められたルールを守りつつ、積極的に、かつ慎重に学校生活を送ってくれています。

困難が多かった6ヶ月の生活の中においても、生徒たちが、自ら「ブレーキを踏み」ながら、行動をコントロールして、制約多き生活をなんとか頑張ろうとしていることは、とても立派であり、素晴らしいと思っています。そして本校の教職員も、定期的に感染症対策を振り返り、話し合い、改善しつつ生徒とともに歩いてきたつもりです。そしてこの間、保護者の皆さまのご理解とご協力がとても大きな支えとなり、今現在、安全・安心な環境で教育活動を行えています。

年末を迎えるに当たり、誰もが「第3波」と認めるような大きな波がやっています。このような状態の中、本校においても今後、感染者が確認されることが考えられます。「すでに個人の努力だけでは防ぎきれない」という専門家の報告もあります。そこで、生徒への対応、保護者の皆さまへの対応を再確認させていただきます。

学校生活中に感染者が確認された場合

- 1 仙台市教育委員会との連携のうえ、臨時休校となる場合があります。
(原則3日間ですが、休校期間が延長される場合もあります。)
- 2 休校措置が決定したら、授業を途中で打ち切り、生徒に周知し、一斉に下校させます。
 - 学級内で、臨時休校に関する文書を生徒に配付します。
 - 学級内にある生徒の学習道具を持ち帰らせます。
(休校期間に使用しない道具は教室内で現状のまま、保管します。)
 - 「休校期間の生活」について、全校一斉に放送で指示して下校させます。
 - 休校期間の学習課題については、その日の夕方～夜にかけて長町中ホームページにて連絡します。
 - その他、必要事項を全校一斉に放送で連絡し、下校させます。
- 3 休校措置が決定したら、なるべく早く保護者の皆さまに緊急メールいたします。
(第一報はなるべく下校前にご連絡するようにしますが、全ご家庭に連絡が届くまで時間がかかる可能性があります。あらかじめご了承ください。)

4 休校期間の学校からの連絡 等

- 必要な情報伝達は、学校からの緊急メール配信となります。
- 市教委や保健所等との電話での情報共有が頻繁になりますので、学校の電話回線が混みあう時間帯が増えます。予めご了承ください。

5 休校期間の留意事項

- ご承知のとおり、学校で感染者が確認された場合は、学校名が公開されます。
- 自治体と保健所で濃厚接触者の判断がなされ、ご家庭に連絡する場合がありますので、不要不急の外出をしないように生徒にお声掛けください。
- 感染者の個人名、学年、学級等は個人情報保護のため、お知らせすることはできません。
- 休校期間中に学校内消毒がなされます。生徒、保護者の方々は、休校期間は校地内に立ち入ることはできません。
- 教職員を自宅待機させる場合があります。休校期間中の電話対応は原則的に管理職対応となります。

6 誹謗中傷等について

- 学校でも指導しますが、休校期間中のSNS等の利用の仕方をお声掛けください。SNS等を利用しての感染者特定につながるような情報交換はくれぐれも避けるように、教職員、保護者の方々が共通の認識を持ち、注意喚起していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

12月になり、寒さが厳しくなっています。今年はインフルエンザの感染と重なるのではないかとの心配がありましたが、今のところ、インフルエンザの流行は全国的にも抑えられているようです。一人ひとりのマスク着用、手洗い等がいつもより行き届いているのかもしれない。

世界の人々が初めて経験する新しい感染症であり、様々な分野の専門家や行政に携わる方々が対策を講じ、日々悪戦苦闘しています。そして、私たち、学校レベルにおいても、様々な学校で、工夫をしながら感染症対策を講じていますが、とてもやっかいな「目に見えない敵」でもあり、難しい毎日です。

本校では、昇降口前での体温チェック、換気、温度・湿度調整、消毒等を継続して実施しております。そして、欠席連絡も、保護者の方々のご協力によって、細かくご説明いただいているため、生徒一人ひとりの状況がよく把握できています。また、3年生の大切な三者面談時期に保護者の方々の動線を一本化させていただきましたが、皆さまにご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

生徒たちは、自らも様々な工夫をしながら、ここまで乗り切ってくれていると思います。「感染症対策のルールを守る」ということだけに限らず、授業中や生徒会活動の中で「誹謗中傷」等について考え、多くの意見を表明してくれています。学級内や学年、そして全体で考えたことが浸透し、一人ひとりが意識できれば、感染者に対する誹謗中傷や差別はなくなっていくものと考えています。感染症は、感染した者が悪いものではありません。差別や誹謗中傷は、そこから生まれるものは何もないばかりか、社会集団に疑心暗鬼の雰囲気蔓延します。生徒たちのなかに育ってきている「感謝の気持ち」「助け合い」の気持ちやそれを実践しようとする態度が、集団を明るく照らします。それがこの感染症に立ち向かっていける光にもなります。感染症が確認されても、緊急事態宣言が発出されても、落ち着いて生活し、自分の人生や他者の人生を傷つける行為だけは絶対に避けたいと考えております。学校に関わる大人全員で生徒の安全を守りたいと思っております。今後とも変わらぬご協力をお願いいたします。